

会 議 録

会議の名称	西東京市都市計画マスタープラン策定市民懇談会 (平成15年度第3回:通算第9回)
開催日時	平成15年7月2日 午後6時30分から9時00分まで
開催場所	インゲビル3階会議室
出席者	(委員)堀越座長、青木委員、宇賀神委員、大森委員、奥村委員、佐藤委員、武田委員、田中(雅)委員、田中(政)委員、鳥塚委員、野中委員、松川委員、村田委員、山下委員) (欠席)永田副座長、佐伯委員、中島委員、沼委員、蓮見委員、米山委員) (事務局)斉藤都市計画課長、館岡都市計画係長、松本主任、増岡主事
議 題	「地域別構想(田無駅西部地域・田無駅周辺地域・田無駅南部地域のまちづくり)」に関する検討等
会議資料	1 会議次第 2 都市計画マスタープラン検討資料 (地域別の概況図)
会議内容	会議内容の要点記録

発言者名	発言内容
事務局	挨拶、定足数に達していることの報告。
座長	あいさつ
以下、発言者は記述せず、論点ごとに要点を筆記する	<p>開会宣言</p> <p>【議事の要点】</p> <p>1．15年度第2回市民懇談会会議録について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15年度の第2回市民懇談会会議録の事務局案について確認をいただいた。</li> <li>・委員より、東大農場のあり方については、さらなる議論の必要性があるとの意見が出され、次回第4回の市民懇談会において時間をとることとなった。</li> <li>・会議録の内容については一同に了承をいただいた。</li> </ul> <p>2．田無駅西部地域のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田無駅西部地域のまちづくりに関して、概況が事務局より説明され、その後次のような意見・感想が出された。</li> </ul> <p>&lt;石神井川について&gt;</p> <p>石神井川は市内唯一の川らしい川であり、コンクリート護岸となっている現状が残念である。</p> <p>近年水質が改善したが、また悪化する兆候もみられる。せせらぎ的な復活を目指すのか、蓋がけをして緑道的な整備をするのか、いずれかを選択する必要がある。</p> <p>川沿いに生えている「チガヤ」という草を黒マルチで覆い根をからしてしまっている人がいる。これは石神井川のシンボルでありやめて欲しい。竹炭を入れて浄化する方法もあるが、大量に必要なため、物理的に無理である。</p> <p>水量を増やす必要がある。現在の川幅では難しいであろう。</p> <p>玉川上水からの分水も距離があるため困難であり、蓋がけして遊歩道とするのが現実的ではないか。</p> <p>白子川や新川と異なり、まだ蓋がけしていないため、水に親しめる整備の可能性を追求したい。</p> <p>清掃活動を活発化するなど、啓発のための取り組みが必要である。</p> <p>蓋がけしないことで市民の意識が高まり、水質が保全されるという例もある。</p> <p>水の流れる部分を狭め、両側は盛土して遊歩道にしてはどうか。</p> <p>将来のあり方について、マスタープランで強く打ち出すべきである。</p> <p>&lt;大規模工場の転出について&gt;</p> <p>(三共製薬から田無工場が移転するという話が市にあったという説明が事務局よりされた。)</p> <p>三共製薬の工場地は、駅から離れており、道路付けも悪いので、それほど高度利用されないと考えられる。</p>

近年の需要から考えて工場とはならず、高層マンション化することが危惧される。マンションになると交通量が増えるため、周辺道路の整備が必要である。

シチズン時計も本社機能以外は転出するとの情報がある。

<地域の道路網について>

市役所通りの商店街付近の区間は幅員が狭く危険な状況にある。(事務局より、一部区間周辺で整備に向けた買収を開始しているとの説明がされた。)

市役所通りは五日市街道の抜け道となっており危険である。

総合計画の検討会では、生活道路網の整備を望む意見が出されている。

民間が新しく開発した区域では比較的道路網が整っているが、その外部との連続性が悪く、クランク状の道路が多い。

単純にクランク状の道路を直線にすると、通過車両の速度が上がり危険性を高める面もある。

田無はクランク、保谷は行止り道路が多いという傾向がある。

青梅街道は駅付近よりも芝久保付近で事故が多い。

<その他>

農地は比較的少なく都会的な住宅地が中心の地域である。一戸建て住宅が多く、従って高齢者の割合も高い。

3. 田無駅周辺地域のまちづくりについて

- ・田無駅周辺地域のまちづくりに関して、概況が事務局より説明され、その後次のような意見・感想が出された。

<地域を通る幹線道路について>

青梅街道が単なる通過道路となっており、新青梅街道に分担させるべきである。

青梅街道・新青梅街道・所沢街道が集中しており、北原交差点を中心に非常に危険である。具体的には、青梅街道は商店街であるにもかかわらず通過交通があり、安心して買物を楽しむ気になれない。新青梅街道は、歩道が狭く通過交通の圧力をまともに感じる。所沢街道は自動車専用にしてはどうかと思えるほど歩行が危険である。新宿区では車道を狭くして道路を整備したと聞いている。将来展望が聞きたい。

(事務局より、北原交差点付近の問題は認識している。車道を狭めるには、代替路線が必要であり、そのためには東大農場を通る都市計画道路の整備によるしかないのではないかとの意見もある。所沢街道についても、都市全体の幹線道路網の整備により、徐々に負荷を減らしていく努力をしたい、との説明がされた。)

北原交差点は大部分が直進車両であるため、左折・右折車が渋滞の原因となっている。

新青梅街道はもともと水道管の敷設のための空間であったのが、需要追隨的に道路とされた背景がある。

< 田無駅北口広場等について >

北口広場周辺は、放置自転車や駐車待ち車両が多く、問題となっている。広場の地下を利用して駐輪場や駐車場を設置すべきであった。

三鷹駅のように、駅周辺の駐輪は許可された自転車のみに行っているところがあり、参考にすべきである。

吉祥寺駅のように、駐車場を設置して路上駐車の減少を目指す必要がある。吉祥寺は周辺の寺社が駐車場設置に協力している。

田無小学校の地下を駐車場にする考えもある。誰もが認知しやすいため、利用率が上がると考えられる。

吉祥寺のように、駅から少し離れた所に駐車場を整備し、そこに駐車した後はコミュニティバスを利用する「パーク&ライド」という方法もある。（事務局より、吉祥寺に比較して一週間を通して安定した需要がないことから、民間事業者による駐車場経営が進まない現状があることが情報提供された。）

これからでも駅前広場に地下駐車場の建設は無理なのか。（事務局より、相当の事業費を要した大規模事業であり、途中でも様々な改良案が出されたが実現できなかった。様々な主体との調整が必要であったため、理想を実現できなかった面があったとの説明がされた。）

保谷駅の北口についても最近整備されたが、タクシー乗場が時間帯によって移動されていたり、夜間は放置自転車が多いなどの問題を抱えている。都市計画事業完了後の利用方法が大切であると思う。

防犯も含め監視カメラを設置し多角的にまちづくりの成果を検証したい。

ひばりヶ丘駅周辺の開発などにおいて教訓とすべきであろう。

田無駅北口周辺については、市民の多くが誇りをもっており、せっかくの機会であったのなら、より理想が追求できた筈であるとの残念な気持ちを持っている。

田無駅周辺は立派になったが、市内のその他の駅周辺の商店街は衰退しており、市全体の発展という観点から今後はそれらの対策こそ重要である。

東武東上線でも、沿線のまちが連携した取り組みを行っており、参考にすべきであろう。

< 総持寺について >

地域の歴史的な資源として、総持寺や田無神社等がある。

総持寺は、西武沿線でも格上の寺である。

新東京百景に入っているが縁日がなく、1日・6日に市が立つが、あまり人が集まる場所となっていない。

けやきは素晴らしい。

< その他 >

田無庁舎について、文化センター機能をもたせるなど、有効活用を促進すべきである。

4. 田無駅南部地域のまちづくりについて

- ・田無駅南部地域のまちづくりに関して、概況が事務局より説明され、その後次のような意見・感想が出された。

< 道路網と危険箇所について >

田3・4・10が南北方向の自動車交通の主軸となっているが、西武線の近くで坂道を下りきった所や、信号の未整備などところがあり危険を感じる。旧道（武蔵境通り）との機能分担が中途半端である。

東西方向の幹線道路が不足する傾向にある。

生活道路全般が屈曲しており、迷路のような箇所もある。

柳橋交差点は交通事故が多い。

柳橋交差点に限らず、五日市街道全体で交通事故出動が多くなっている。

JA東京あぐり横の通りは、坂道で幅も狭い割に車が良く通り、すれ違いが難しい道路となっている。計画道路もあるが難航していると聞いている。

< その他 >

地域の特性として「玉川上水・千川上水が地域の南側を流れる。」

「五日市街道は軍用道路として建設され、当時は珍しいコンクリート舗装がなされた。」「武蔵境通りが南北道路の中軸である。」「住宅の密集地と農地等のオープンスペースに大きく分けられる。」といったことが挙げられる。

向台小学校・柳沢小学校等が偏って配置されており、地域の南側に小学校が不足する傾向にある。再配置を検討するべきである。

東伏見・西武柳沢駅南部地域となるが、三菱銀行のグラウンドは、近年の銀行の状況から考えて、売却される可能性が高いことから、跡地の土地利用について関心をもっておく必要がある。

比較的閑静な住宅地であり、駅から少し離れると造園業を営む人も多いが、宅地化が進行する傾向がみられる。

石川島播磨重工業についても転出するとの情報を耳にしている。

西武線と石神井川に挟まれた一帯は、生活道路が未整備で敷地形状も不整形な市街地となっており、改善が望まれる。

市民の声が行政にとどいたことが無く、今回も期待できない。（事務局より、市民参加の初期段階は行政主導とならざるを得ない面があり、徐々に市民パワーが育ってくるものと考えている。長い目で見ていただければ幸いですとの説明がされた。）

かつては、せせらぎがあり、駅前から富士山が望め、原っぱがあった。どうして現状のようになってしまったのかと思う。行政に任せきりにしてきた自分たちにも責任の一端があるのかとも思う。マスタープランの策定が法律で定められてから約10年が経過し、地方分権が進行したといっても実際は市には権限が少ないときく。郊外の農地と共存した美しい住宅都市づくりを基本に行政の努力に期待したい。

6. 次回の開催日時・開催場所について

- ・次回の懇談会は、8月6日の午後6：30からとする。
- ・江戸東京建物園で紙芝居をされている委員より、本懇談会でもそれをご披露いただく。

(以上)

〔懇談会後に委員より提出された意見の要点〕  
なし

